

シンポジウム趣意

渡辺 章悟

20 世紀は戦争の時代と言われてきた。この言葉には 20 世紀だけでなくそれまで数千年の人類の愚行を反省し、今後は決してそうした時代にはしてはならぬという決意が込められていたと思う。しかし、世界各地での戦乱やイデオロギーの対立は収まらないままに、1970 年代ころから 21 世紀は民族の時代だという言葉も使われはじめた。世界は良きにつけ悪きにつけグローバル化の時代に突入し、戦争をしてはならぬという決意どころか、ますます泥沼化していく世界の様相を、民族問題の視点で捉え対策を考えようとしたのである。

現在世界各地で頻発する政治的対立や経済格差などの問題は、国家や民族の枠組みを解体する宗教的アイデンティティを理解することなしには対処することができない状況になった。21 世紀はまさしく宗教の時代に突入したのである。政治、経済、社会のことは教育機関やメディアでもよく取り上げられるが、宗教のことを真剣に論じる場はあまりないのが実情である。今までわかったつもりになっていた相手のことが実はほとんどわかっていなかったのではないか。そのような反省を踏まえ、今回のシンポジウムではアジアの国々や地域がどのような宗教問題を抱えているか、また宗教自身に内在する問題はなにかを討議したい。